

禪宗哲學序論

ト雖モ禪門ニシテ以上ノ短所アルカ如キハ決シテ其眞ノ短所ニアラスシテ其弊ナルヲ明カナリ換言スレハ未タ禪道ヲ透徹セサルヨリ生スル誤謬ナリ若シ眞ニ大悟ノ地ニ達スレハ何ソ此ノ如キ短所アランヤ例ヘハ前段ニ述フル所ノ禪家ノ活脫ヲ誤リテ放蕩トナスカ如キハ是レ固ヨリ其短所ニアラスシテ誤解ナリ故ニ其門ニアルモノハ須ク誤解ノ弊ヲ矯正シテ眞正ノ面目ヲ發露セサルヘケンヤ

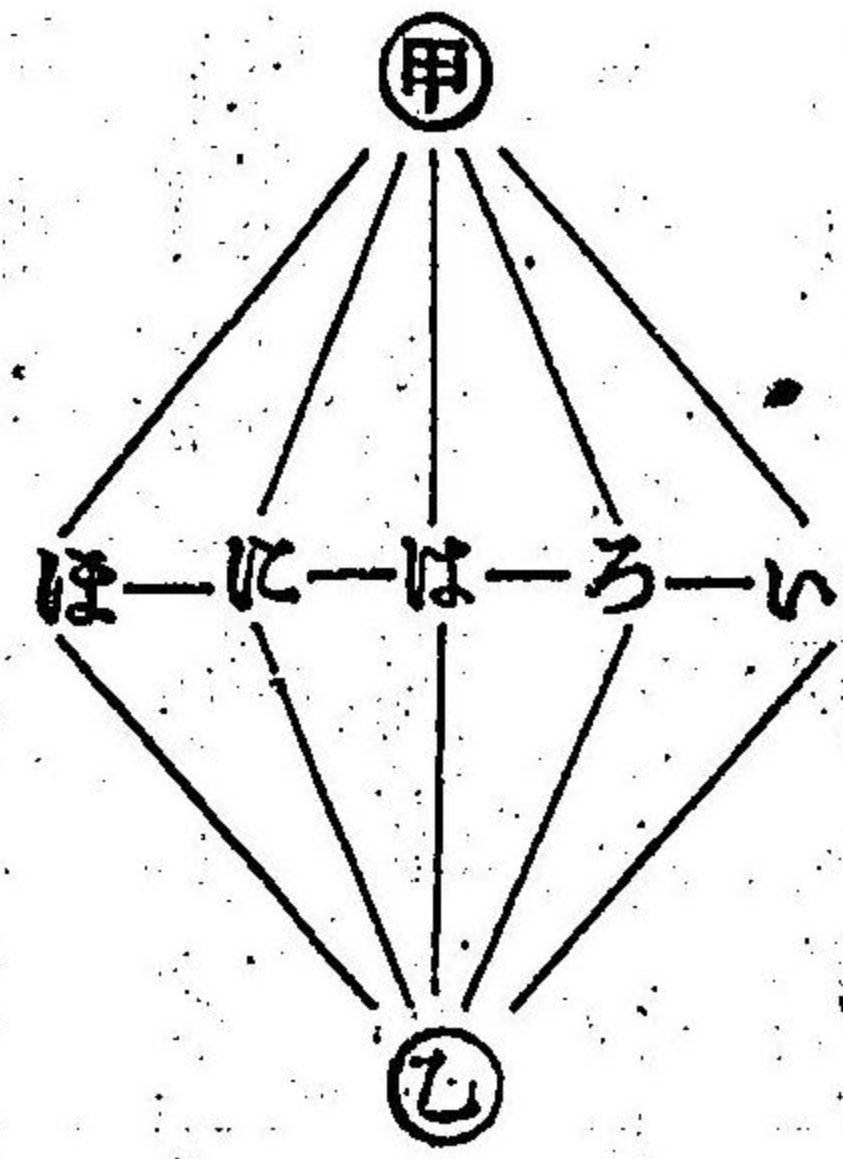
第三十九節 又世間一般ニ唱フル所ノ禪門ノ短所ハ第一ニ遁世脫俗ノ風ニ偏シテ社會競爭ノ今日ニ適セ

結

論

サルヲ第二ニ各自ノ心鉢上ニ宗教ヲ立ツルヲ以テ是ニヨリテ人心ノ結合ヲ謀ルヘカラサルヲ是レナリ其第一項ノ意ハ禪宗ハ各自ノ心内ニ向フテ悟道ヲ求ムルモノナレハ自然ニ厭世ノ風ニ傾クヲ云フナリ然レハ前段第三十二節ニ述フルカ如ク是レ禪門ノ表面ヲ見テ裏面ヲ知ラサル論ナリ若シ裏面ニ入りテ之ヲ視レハ厭世ノ法一變シテ愛世トナルヘシ豈遁世ニ偏倚スル宗旨ナランヤ又第二項ノ意ハ各自ノ心性ハ眞如ニ到達スル關門ナレハ悟道ノ目的ハ自己ノ上ニアリ更ニ自己ヲ離レテ一物ノ待ツヘキナシ故ニ其教タル

ヤ各自孤立ノ風アルヲ免レヌ之ニ反シテ淨土門諸宗
ノ如キハ阿彌陀佛一躰ヲ專念スルヲ勸ムルヲ以テ
衆人ノ心ヲ一結スルニカアリトス耶蘇教モ天神一躰
ヲ立ツルヲ以テ亦民心ヲ結合スルニ功アルヘシ然レ
正其之ヲ結合スル道理ニ於テハ禪門モ餘宗モ決シテ
異ナルヲナシ唯其ノ結合ノ方法同シカラサルノミ即
チ淨土門諸宗及ヒ耶蘇教ハ外界即チ客觀上ニ於テ之
ヲ結合シ禪宗ハ心内即チ主觀上ニ於テ之ヲ結合スル
ノ異同アリ



例ヘハ右ノ圖ニツイテ假リニいろはにほヲ個人的心
性ニ比シ甲ヲ客觀上ノ神佛ノ本躰ニ比シ乙ヲ主觀上
ノ心性ノ本躰ニ比シテ考フヘシ禪宗ニテ唱フル心性
ノ本躰ハ眞如ノ理躰ナレハ衆人ノ心ノ合シテ一躰ト
ナリタルモノヲ云フ故ニ其躰ハ主觀上ニ於テ人心ヲ

結合スルモノト謂フヘシ果シテ然ラハ此二條モ又決シテ禪宗ノ短所ニ有サルナリ若シ夫レ之ヲ其宗ノ短所ト假定スルモ其短所ノ却テ長所ナルヲ知ルヘシ蓋シ宗教ニ遁世ノ風アルハ宗教ノ宗教タル眞面目ニシテ其社會ヲ裨益スル所アルモ亦主トシテ此點ニアリ數日間社會ニ立テ人ト共ニ競争シテ其心思ヲ勞スレハ一日閑處ニツイテ精神ヲ休息スルヲ要ス恰モ晝間勞働スレハ夜間眠息ヲ要スルカ如シ是レ民間ニ寺院ノ設ケアル所以ニシテ亦教會ノ定日アル所以ナリ故ニ教會日ニハ衆人男女老少ヲ問ハス寺院ニ參集シテ

數日間ノ苦心ヲ醫シ精神ヲ別世界ニ遊ハセテ翌日ヨリ再ヒ社會ニ出テ、衆ト共ニ争ハサルヘカラス果シテ然ラハ宗教ニ遁世ノ風アルハ却テ社會ニ益アル所以ナリ又禪宗ハ主觀上ニ目的ヲ立テ、人ヲシテ孤立セシムル風アリトスルモ凡ソ人ハ他ニ依頼シ過クル弊アルヲ免カレサレハ獨立ノ氣風ヲ養成スルヲ肝要トス此氣風ヲ養成スルニハ各自ノ心中ニ不羈自由ノ別天地ヲ開キ無限性活動的ノ大意力ヲ發セシメサルヘカラス是レ禪宗ノ本色ニシテ其孤立ノ風アルハ獨立ノ風アル所以ナリ故ニ余日ク禪宗ノ短所ハ却テ其

長所ナリト

第四十節 更ニ禪宗ノ上ニ起ル一問題アリ禪宗ハ其理其味共ニ靈妙ナルモ之ヲ實際ニ弘通スルニ當リテ愚俗ヲシテ此宗ニ入ラシムルヲ難シ如何シテ之ヲ通俗ニ適用センヤ凡ソ人ニ賢愚ノ別アル以上ハ高尚ナル教理ハ愚者ノ耳ニ入ラス淺近ノ宗旨ハ智者ノ心ニ感セス一方ニ適スレハ他方ニ適セサルハ勢ノ止ムヘカラサル所ナリ抑モ佛教ハ數多ノ法流アルモ流レテ根本性海ニ入レハ齊ク一味ノ智水ナル恰モ百川流レテ大海ニ入レハ一水トナルカ如シ而シテ各宗其門内

論序學哲宗禪

結

論

ニアリテ之ヲ視レハ自宗獨リ眞實ニシテ他ハ皆方便ナルカ如ク見ユルヲ以テ禪家ニテハ釋尊一代ノ說教ハ要スルニ佛心ヲ開示シ群生ヲシテ悟入セシムルニアリ唯人ノ機類一ナラサルカ爲メニ止ムヲ得ス三乘十二分教ヲ說クモ是レ皆方便ナリト云フ今其門ノ人ノ他教ヲ評スル所ヲ舉クレハ無盡燈論ニ教乘ハ偏ニ途路ノ親疎ヲ論シ禪門ハ頓ニ途路ノ超過ヲ示ス教乘ハ遙ニ成佛ノ妙境ヲ說キ禪門ハ直チニ成佛ノ端的ヲ試ム譬ヘハ貧家ノ財室ヲ論スルカ如シ論シ得テ妙ヲ盡クスト雖モ自ラ用フルヲ能ハス何ソノ益スル所カ

アラン譬へハ庶人ノ國王ノ尊貴ヲ論スルカ如シ論シ
得テ妙ヲ盡スト雖モ依然トシテ是レ庶人ナルノミ若
シ國王ノ尊貴ヲ論シ富家ノ財寶ヲ羨マンヨリ自ラ獲
得シテ好マンニハ如カスト云フ是レ他宗ハ理論ニシ
テ禪宗ハ實際ナルヲ述ルナリ又淨土門諸宗ニテ難
易二道ヲ分チ禪宗ヲ以テ難行道ノ一種トナスニ對シ
テ禪宗ノ論スル所ヲ見ルニ大凡ソ難行易行ニハ諸宗
通シテ二義アリ方便門中ニハ念佛ヲ以テ易行トナス
諸餘ノ行業ハ心專精ヲラサルカ故ナリ實乘門中ニハ
見性ヲ以テ易行トナス一切ノ佛法皆是ヨリ出ツルカ

故ナリト云フ其意差別門ニアリテハ淨土門ヲ易行ト
シ平等門ニアリテハ禪宗ヲ易行トスルナリ是レ禪宗
ハ佛教ノ理論ヲ直チニ實行上ニ應用シタルニヨル其
論理宗ニ對シテ易行ナルモ猶ホ難行タルヲ免レス故
ニ禪宗ニテハ前段第三十五節ニ述フルカ如ク修證不
二ノ道理ニヨリ通俗ニ對シテハ懺悔受戒行持報恩ノ
佛道修行ニ缺クヘカラサルヲ示セリ是ニ於テ賢愚
二種ノ人ヲ其門内ニ容ル、一ヲ得ルニ至ル蓋シ佛教
ハ表裏二面ヲ兼備シタル宗教ナレハ表面ニ本キテ立
テタル宗派ハ裏面ヲ開キ來リテ始メテ全キヲ得裏面

禪宗哲學序論

ニ本キテ起シタル宗派ハ表面ヲ併セ來リテ始メテ完
 キテ得、故ニ眞宗ノ如キ差別門ニ本キテ説キタルモノ
 モ其裏面ニ平等ノ理ヲ存シ禪宗ノ如キ平等門ヲ開キ
 テ出テタルモノモ其裏面ニ差別ノ法ヲ捨テス何レノ
 宗派モ皆完全圓滿ヲ得ルハ佛教ノ特性ニシテ其法ノ
 諸教ニ冠絶セル所以ナリ

第四十一節 此ノ如ク論シ來ラハ佛教中ノ諸宗諸派
 ハ孰レモ優劣長短ナキニ似タルモ亦オノツカラ可否
 得失ノ存スルアリ而シテ其得失ハ教理ノ上ニアラス
 シテ應用ノ上ニアリ應用ノ上ニアラスシテ時ト人ト

結 論

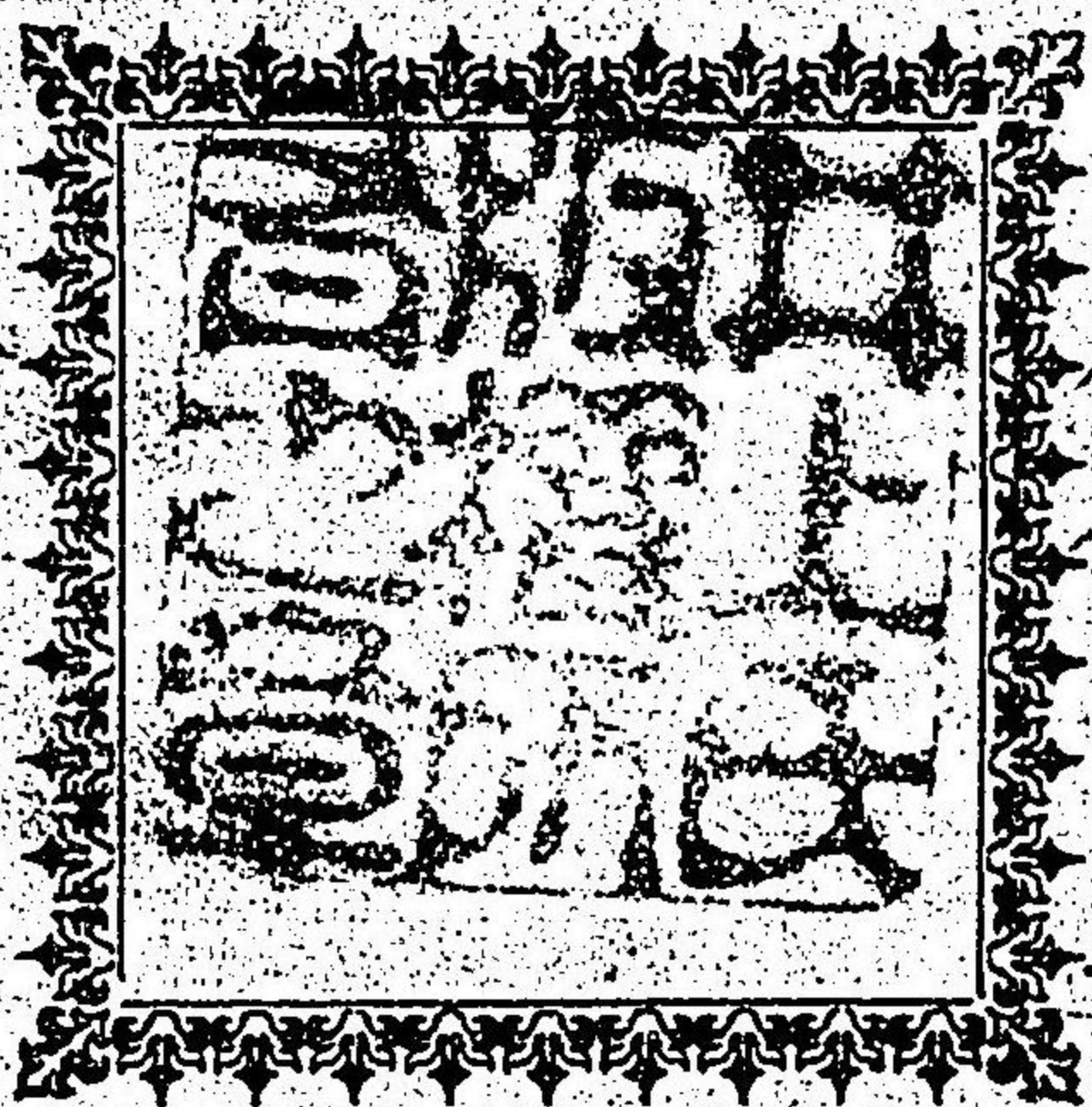
ノ方ニアリ即チ禪宗ノ相應スル時機ト他宗ノ相應ス
 ル時機アリ見性悟道ノ適合スル人ト適合セサル人ア
 リ於是優劣ヲ生ス然レモ若シ假リニ各宗共ニ表裏兩
 門ヲ開キテ教化スルニ於テハ時ト人トヲ擇ハス同様
 ニ適應スルヲ得ルト定ムルモ尙ホ大ニ可否得失ノ
 論スヘキモノアリ即チ布教ノ方法ノ其宜キヲ得ルト
 得サルト并ニ傳道ノ僧侶ノ其人ヲ得ルト得サルトニ
 ヨリテ盛衰ノ關係ヲ生スルナリ是レ實ニ各宗興廢ノ
 起因セル一大事ニシテ諸宗ノ長短モ亦多ク是レニヨ
 リテ起ル畢竟スルニ佛教今日ノ衰頹ヲ來セルハ其原

因之ヲ外ニシテ布教其者ノ上ニアリ之ヲ内ニシテハ
僧侶其人ノ上ニアリ各宗ノ振ハサルモ其原因亦全ク
此ニアリ是レ余カ天下ニ先チテ大聲一呼佛教ノ改良
ヲ唱道シタル所以ナリ果シテ然ラハ之ヲ改良スルモ
佛教其者ノ上ニアラスシテ僧侶其人ノ上ニアリ若シ
其人ニシテ智徳並ニ進ミ宗教家トシテ耻チサル人物
ヲ得ルニ至ラハ布教ノ方法モ其宜キヲ得傳道ノ結果
モ其實ヲ擧ケン我輩何ソ佛教ノ興盛セサルヲ憂ヘン
ヤ何ソ各宗ノ振起セサルヲ慨センヤ願クハ今ヨリシ
テ後各宗各派ノ優劣ハ理論ノ上ニ問ハスシテ實際ノ

上ニ考ヘ法律ノ上ニ照サスシテ道德ノ上ニ尋テ他人
ノ上ニ責メスシテ自己ノ上ニ顧ミンコト此ノ如クニ
シテ始メテ佛教ニ對シテ本分ヲ盡クシ佛祖ニ對シテ
恩義ヲ報スルコトヲ得ヘク此ノ如クニシテ始メテ佛門
内ノ忠臣孝子ト名クルヲ得ヘシ然ルニ余局外ニアリ
テ禪林今日ノ光景ヲ窺フニ凄風蕭雨仙源一面稍荒涼
ノ色アルヲ覺フ顧ミテ門外明治ノ新天地ヲ望メハ光
風霽日滿目朗然タルヲ見ル何ソ内外風光ノ異ナルコ
此ノ如ク甚キヤ抑モ禪門ハ世界万国ニ未タ其比ヲ見
サル一種靈妙ノ宗旨ニシテ今此寂寥タル光景ニ接ス

苟モ宗教ニ志アルモノ豈感慨ニ堪フヘケンヤ其所謂
千聖不傳ノ向上ノ一路今ヤ將ニ深雪ノ中ニ埋没シテ
世ニ知ラレサラントス嗚呼亦遺憾ナラスヤ禪林深キ
處何ッ一人ノ幽谷ヨリ出テ來リテ喬木枝上回春ノ一
聲ヲ發セサルヤ是レ余カ今日佛心宗ノ光景ヲ觀察シ
テ默止スルニ忍ヒス敢テ自ラ三千年ノ古ニ泝リ靈山
會上拈華ノ座ニ向テ訴フル所アラントスル所以ナリ

明治二十六年六月十六日印刷
全年月十九日發行



著作者兼
發行者

井上圓了

東京市本郷區駒込蓬萊町二十八番地

印刷者

根岸高光

同牛込區市谷加賀町壹丁目廿三番地

印刷所

秀英舎工場

同牛込區市谷加賀町二丁目十二番地

發賣所

哲學書院

同本郷區本郷六丁目五番地

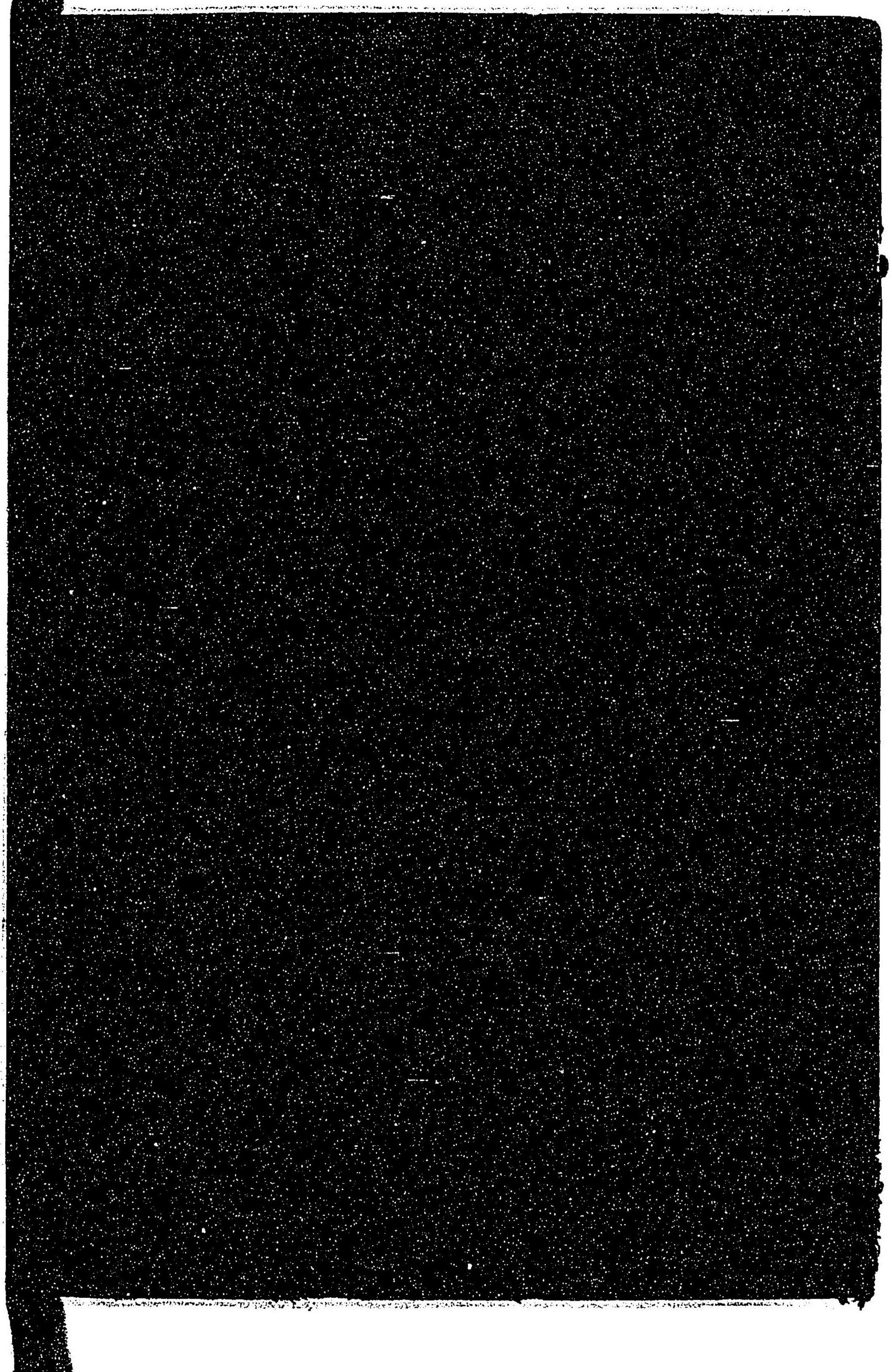
大賣捌所

大坂 松村九兵衛
東京 小林新兵衛
大坂 梅原龜七
京都 興教書院
熊本 長崎次郎

定價金參拾錢



70
89



019626-000-4

70-89

禅宗哲学序論

井上 円了 / 著

M26.6

ABG-0406

